翼をありがとう

福島県骨髄バンク推進連絡協議会・会報

No.9
平成8年1月1日
■発行■
福島県骨髄バンク推進連絡協議会・会報編集委員会
いわき市好間町榊小屋字小畑133-3
㈱ 匿建築事務所内
TEL0246-36-3456 FAX0246-36-3538
■発行責任者■
陽田秀夫

年頭の挨拶

今こそ初心に返って

会長　太田緑子

明けましておめでとうございます。新しい年の初めに一言ごあいさつ申し上げます。

日本の骨髄バンクが誕生して丁度四年間、私たちの福島県骨髄バンクが推進連絡協議会は、白血病などの重症の血液疾患の患者さんたちに一生きるチャンスをプレゼントしたい」と骨髄バンクを正しく理解して戴く活動を県内各地で支援しつつあります。しかし、ここ一年半は骨髄バンクへのドナー登録の伸びが低迷しており、五年間で一〇万人のドナー登録目標達成は非常に厳しい状況にあります。今こそ初心に返って地道に骨髄バンクの理解を求める運動を再スタートさせなければと考えております。骨髄バンクによって「生きるチャンス」を得られた患者さんが多くなって来た一方で、一日千秋の思いでドナーの出現を待ちながらも未だにそのチャンスに恵まれない患者さん沢山いらっしゃるからです。その様な意味から、ドナー一〇万人登録達成の目標は単なる通過点であり、二〇万人・三〇万人と一つ一つ次なる目標を見据えて行動するのが私たちの使命ではないでしょうか。

さて、私たちの昨年の活動を振り返って見ますと、六月いわきでの五周年記念事業、九月郡山市でのジャズコンサート、十月福島県立医大での医学祭におけるシンポジウムへの参加、郡山(骨髄移植推進運動)参加、十二月いわきでチャリティコンサートと続き、十二月には郡山・原町・白河三市における多田そういさんをお招きしての「骨髄バンクを楽しく知って楽しく」を開催することが出来ました。保健所登録地区三カ所で骨髄バンクのPRが出来たことは意義深いものがあると思われます。三地区の看護婦連盟のメンバーを始め多くの方々に協力戴きました。心から感謝申し上げます。共に骨髄バンクに対する理解とご協力の輪が日に日に大きくなっているのを実感出来ることを嬉しく思います。

また、十二月には会津でユネスコ協会と共催で、あやちゃんの贈り物展」と「金色のクジラ上演会」を開催出来ました。心打つ感動的な催しとなるのではないかと思いました。こうして振り返って見ますと、主な事業だけでも書ききれないほどですが、会員の皆様の地まわ献身的なご努力に心より敬意を表したい思います。

昨年の出来事でもう一つ忘れてはならないのが県南支部の設立であります。白河市を中心として「楽しく知る集い」十二月の「楽しく知る集い」に併せて新組織設立の三〇〇人参加といい大イベントとなったのだと思います。県南支部の皆様の今後のご活躍をご期待申し上げます。

昨年も多くの個人・企業・団体の方々から、私たちの活動に対し多額のご寄付によってご支援を戴きました。私たちが心置きなく活動出来るのもこうした方々の心暖まるご支援があってこそであります。心より感謝し、こうしたご支援を無にする事なく有益な活動を継続するエネルギーとしたいと思います。

昨年は久々に会報「翼をありがとう」を三回発行することが出来ました。今年も新年早々皆様にお送り出来る事と思います。今年は、今後も情報提供の大切な手段として発行して行きたいと思います。今年も皆様にとって良い年であります様よう、また、ドナーを待つお一人一人の患者さんが今年こそ「チャンス」に恵まれることを心よりお祈り申し上げ新年のご挨拶と致します。

若い力、大いに期待
―待望の県南支部設立―

昨年から設立準備が進められていた県南支部が去る十二月五日(火)白河市内ホテルサンルート白河に於て開催された設立総会の席上、県内五番目の支部として誕生した。

陽田秀夫県協議会運営委員長、大谷貴子全国協議会副会長を来賓として迎え、設立趣意(案)、会則(案)を承認。のちに役員を選出した。

冒頭、関根政雄準備委員が支部設立に至る迄の経過を説明。鈴木清次氏(白河青年会議所理事長)が議長に選任され各議案共、意義なく可決承認した。

議事終了後、県南支部長に就任した小野利廣氏(福島県南土建業株式会社)白河保健所で一次登録が実施できる様になったのをきっかけとして、若い力を結集し、骨髄バンクの輪を更に拡大しよう」と力強く挨拶した。また来賓の陽田秀夫氏、谷田貴子両氏も「県内で五番目の支部の設立を心から祝福したい。県南の人間本来のやさしさの輪の拡大を大に期待したい」と御礼を兼ねた祝辞を述べた。

昨年六月二十四日、社)東白川青年会議所の有志で組織された骨髄バンクを考える会(三浦のンポジウムが棚倉町で開催された。講師に大石邦子、大谷貴子両氏をお迎えし、『まずは知ることからはじめよう』と市民に呼びかけた。大半の方は「骨髄バンク」を初めて聴く方ばかりであった為に意義深かった。

あれから一年数ヶ月が経ち待望の白河市を中心とした県南支部の設立をみた。この設立は青年会議所、商工会青年部の関係者が中心的な原動力となった。また運営委員、役員の大半が患者さんと直接縁のない方で組織しているのが大きな特徴である。新支部の今後の更なる活動を大いに期待したい。

〈新　役　員〉

会　　長　小野　利廣
副 会 長　須藤　博之
〃　　吉田　政夫
〃　　関根　政雄
〃　　酒井　喜代
〃　　金子　芳尚
〃　　酒井　正喜
〃　　鈴木　清次
〃　　斎藤　浩一
〃　　渡辺　正晃
〃　　緑川　賢一
〃　　吉田　譲
〃　　橋本　秀也

〈県南支部事務局〉
石川郡浅川町
大字浅川字大明塚六一一
㈱花月庭園内
TEL〇二四七(三六)四六四六

Fukushima 福島県骨髄バンク推進連絡協議会　事務局/〒970-11 いわき市好間町榊小屋字小畑133-3 TEL0246-36-3456 FAX0246-36-3538

県北支部
〒960
福島市北沢又字横越6-1(赤間方)
TEL&FAX 0245・58・4040

会津支部
〒965
会津若松市門田町大字追川字村中334-1(青木方)
TEL 0242・83・0552

郡山支部
〒963-07
郡山市田村町金屋字上川原129-1(松本方)
TEL&FAX 0249・44・5762
大越連絡所(松崎方)
TEL 0247・79・2467

いわき支部
〒973
いわき市内郷御厨町久世原16
いわき市立総合聖城共立病院成分輸血室内
TEL 0246・26・3151 (内2284)

県南支部
〒978-04
石川郡浅川町大字大明塚6-1(花月庭園内)
TEL 0247・36・4646
FAX 0247・36・4649

心からのご寄付をありがとうございました
平成7年10月～11月受付分

平成7年度

《本部受付分》

募金
齋　敏明……10,000
櫃木信男……20,000
陽田秀夫……10,000
小松　薫……10,000
骨髄バンクを支援する会……1,200,000

《県北支部受付分》

募金
青木恭介……1,000

《郡山支部受付分》

秀和企画……1,585
安積町商工会婦人部……50,000

《いわき支部受付分》

募金
渡辺美知子……3,000
陽田秀夫……14,020
田代眞……10,000

《会津支部受付分》

吉田幸代……20,000
佐藤　惇……50,000
会津ユネスコ協会……10,000

《県南支部受付分》

井戸の会……26,000

《各支部受付 ハガキ・切手・テレカ》

青木恭介……(切) 700枚
黒須堅二……(切) 200枚
青木恭介……(ハ) 4枚
黒須堅二……(ハ) 3枚
菅野多計郎……(ハ) 200枚
黒須堅二……(テ) 50×1枚
匿名……(テ)105×10枚
齋　京子……(テ) 50×2枚
鈴木博文……(パ) 130枚
渡辺美知子……(ハ) 3枚
本田良子……(ハ) 76枚
匿名……(ハ) 39枚

(敬称　略)

骨髄バンクのボランティア活動はすべて募金・寄付によって行なわれています。皆様のご支援をよろしくお願い致します。
［郵便振替口座番号］　02170－6－13321
加入者名義　福島県骨髄バンク推進連絡協議会

骨髄バンク事業の概要
((財)骨髄移植推進財団発表)

ドナー登録者数、患者登録者数及び骨髄移植例数
(平成7年11月末日現在)

	全国合計	(福島県)
ドナー登録者数	68,770人	969人
患者登録者数	3,581人	48人
骨髄移植例数	593例	(データー無し)

HLA適合患者・ドナーの状況　(平成7年12月7日現在)

患者の状況	
検索依頼患者数	3,600人
2次検索(DR座)適合患者数	2,465人
ドナーの状況	
1次検査(A、B座)適合ドナー数	56,809人
2次検査(DR座)実施済ドナー数	46,389人
2次検査(DR座)適合ドナー数	9,106人

ワンショット　すけっち

▶十一月十九日　棚倉町にて骨髄バンクPR

◀大谷貴子(骨髄バンク)さん(実は吉田所央さんに移植後生まれた女児のお子さんです)

福島県内ドナー登録施設案内

地区	受付場所	登録受付日時	住所
福島地区	福島県赤十字血液センター内	毎週(月)～(金) 9:00～16:00	〒960 福島市渡利字北の内28 ☎0245(22)9266
会津地区	会津赤十字血液センター内	毎週(月)・(水) 9:00～16:00	〒965 会津若松市一箕町大字八幡字門田1-2 ☎0242(24)6650
いわき地区	いわき赤十字血液センター内	毎週(火)・(木) 9:00～16:00	〒970 いわき市中央台飯野5丁目1-1 ☎0246(29)5624
郡山地区	郡山保健所	毎週(月) 13:30～	〒963 郡山市麓山1丁目1-1 ☎0249(35)1504
県南地区	白河保健所	毎週(水) 午前中	〒961 白河市字郭内127番地 ☎0248(22)5441
相双地区	原町保健所	毎週(月) 9:00～11:30	〒975 原町市錦町1丁目30 ☎0244(26)1324

※登録の際は電話で御予約の上おでかけ下さい。
※まずはパンフレットをご請求下さい。
1面の各支部又は(財)骨髄移植推進財団　☎0120-377-465まで

▲チャリティートレーナー　発売中
1着 3,000円(Lのみ)
お申し込みは各支部へ

▶サンリオ
ポケットティシュ
(無料)

骨髄バンク　配付品・販売品紹介

財団の新しいポスター完成
事務局へ連絡を下されば無料でお分けします。目立つ所に貼って下さい。

編集後記

いよいよ96年が始まりました。昨年は何かと世間は暗いニュースが多かったようですが、わたしにとってはとても充実した一年でした。骨髄移植を見てからは、見るもの聞くもの食するもの全てが新鮮で感動の連続。「一生きてよかった」そう思える様な年になりました。そして「翼をありがとう」も皆様のご協力により、無事に発行することができました。

今年は新しく県南支部という強力！な力も加わりました。昨年以上に骨髄バンクの輪が広がるようにみんなで頑張りましょう！

今年も「翼をありがとう」ともども、どうぞ宜しくお願い致します。

(吉田麻里)

ねむっていませんか？切手・はがき

書き損じのはがき・使う予定のない切手・はがきをくださいませんか
骨髄バンク運動に有効利用します
福島県骨髄バンク推進連絡協議会☎0246・36・3456
(送り先)　1めん記載の最寄りの支部へお送り下さい。

骨髄バンクを楽しく知る集い

歌とトークで初心者にも分かり易く

多田そうべいさん（元殿様キングス）を招いて

12/3～5

元殿様キングス・メンバーの多田そうべいさんをお招きして、歌とトークで骨髄バンクを「楽しく」知ってもらおうということで、十二月三日（日）郡山、四日（月）原町、五日（火）白河に於て集いが開催されました。

今回の知る集いは、第一部に「多田そうべいの『大人の寺子屋』講演」、第二部「『トーク』骨髄移植者、提供者の体験座談会Q&A」、第三部「多田そうべいの『爆笑ミニコンサート』」と三部構成になっており、これまで骨髄バンクを知る集いとは、少々趣をかえた集いとなりました。

多田そうべいさんは、殿さまキングス（八九年解散）に二三年間在籍し、八四年「心にビタミンを」をキャッチフレーズに温もり溢れる「大人の寺子屋」を説く「大人の寺子屋」を開設しました。九一年に二男の方を再生不良性貧血でくされてからは、骨髄バンクの重要性を訴えながら全国を回っておられます。

第一部の『大人の寺子屋』のなかでは、知識と知恵の違い、歌手としての父親としての思い、そして骨髄バンク、骨髄提供については見板を用いてわかりやすく説明して下さいました。

第二部の『トーク』には、県内在住の移植経験者、ドナー経験者が複数参加しました。初日の郡山の会場には、ドナーの経験者は郡山市の清水照雄さん、大越町の佐藤高始さん、移植経験者として白河市の私、吉田麻里さんの四人でした。

▶白河会場にて「トークコーナー」

▲白河会場にて多田そうべいさん "花束を手にニッコリ"

二日目の原町には、骨髄バンクの広告塔として全国を駆け巡り大活躍中であり、骨髄移植経験者でもある大谷貴子さんにお越しいただき、二部の『トーク』にQ&A方式で始まりました。

また、郡山会場には大石邦子さんが駆付けて下さり、『トーク』の最後に会場から感想をいただきました。

二日目の原町には、骨髄バンクの広告塔として全国を駆け巡り大活躍中であり、骨髄移植経験者でもある大谷貴子さんにお越しいただき、二部の『トーク』に参加していただきました。

三日目白河での『トーク』は、清水照雄さん、大谷貴子さんと移植経験者として白河市の吉田麻里さん、大越町の佐藤貴子さんが参加して下さいました。

吉田麻里さんは慢性骨髄性白血病を発病し、お姉さんから骨髄の提供を受けました。その後四人目の お子さんも誕生し、移植から五年がたちました。

佐藤貴子さんは、ドナー経験者として郡山、原町の会場に参加して下さった佐藤高始さんの娘さんで、中学一年生の時に再生不良性貧血を発病し、その後、当時五歳の弟さんから骨髄の提供を受け、元気になり現在は高校生活を楽しんでいるそうです。

多田さんと骨髄移植、提供者それぞれの体験談話の後は、第三部『爆笑ミニコンサート』がありました。カラオケファン必見のプロが教える歌唱法や楽しいお話に、会場は爆笑に次々爆笑でした。殿さまキングスビットメドレーの時は、一緒にロずさむ方々もたくさんおり、最後はアンコールの声も飛び出しました。

「骨髄バンク」と言うと、とかく重く固いイメージが付きがちですが、今回の集いは専門的で難しい話もなく、骨髄バンク初心者の方にとっては分かり易かったのではないでしょうか。

佐藤貴子さんは『トーク』のなかで「友人が白血病を発病し、現在病気と闘っています。自分と同じように骨髄移植を受けて元気になってほしいと思うことを会場で訴えていたのが、移植を希望してドナーになる患者さん達がたくさんおり嬉しかったと思います。その人達さんとおり皆さんがということを分かって頂きたいのです。

最後になりましたが、お忙しい中各会場にお越し頂いたたくさんの皆様にしかられたことを感謝いたします。

吉田麻里

▲心に響く ピアノ三重奏のしらべ

▲原町会場にて "トークコーナー"

▲郡山会場にて販売・受付コーナー

骨髄バンクキャンペーンコンサート

「ピアノ三重奏の夕べ」

いわきに響いた感動のしらべ

今回で第四回目となった骨髄バンクキャンペーンコンサート「ピアノ三重奏の夕べ」が十二月十一日、いわき市医師会准看護学校大ホールで開催されました。

このコンサートは毎回、サンクト・フローリアン・ピアノ三重奏団の皆さんの熱い思いが会場に伝わります。特に今回は「世界の民族・世界の音楽」と題し、世界の風景や人々の生活をスライドで映し出し、演奏者のみなさんが説明を加えながら日頃音楽にあまりなじみのない方々にも楽しんでいただけた工夫がなされた内容でした。

浦和、新宿、松戸に続いてのいわきは最終日で前日の夜中にいわき入りして次の日、フィリップ・ヤングさんが、その日の夜に帰るという強行軍で行われました。しかも前二日間は新宿での昼休みコンサートもこなす等移動にも時間を要し、疲労もピークに達しているのではないかと思われるなかですばらしい音楽をいわき市民にプレゼントしてくださったサンクト・フローリアンの皆さんに頭が下がる思いです。

ご友人の金井いずみさんに、そして骨髄移植を待つすべての患者さんに今回の素晴らしい音楽の響きと共に幸運が訪れることを願っています。

今年を土台に充実した大きな成果を

「骨髄バンクを支援するつどい」無事終了

今年もたくさんの方々の暖かいお心に支えていただき、無事『骨髄バンクを支援するつどい』を終了することができました。

会場が今までと変わったこと、前夜に強い風雨が吹き荒れたことなど、不安は尽きませんでしたが、当日の晴れ上がった美しい青空は、安堵と共にたくさんのお客様を運んできてくれました。

広い会場では、ゆったりとお客様に買物や喫茶をお楽しみいただくことができましたし、講演会はほぼ満席という状態で、大石さんの講演は静かな熱気に満ちていました。

シレーネ・カンタンテの皆さんも、美しいだけでなく、深い感動を歌に寄せて、充実した催物としての締めくくりをして下さいました。

会場からは複数のドナーのお申し出もありました。また一つ、命のチャンスが生まれるかもしれません。私共にとって一番の喜びです。

そして、今回の収益金の中から二〇万円を骨髄バンクボランティア組織である福島県骨髄バンク推進連絡協議会に寄付させていただきました。

以上のような、私共の予想を上回る大きな成果を上げることができましたのは、ひとえにたくさんの皆様のご協力の賜物です。

回を重ねましても、まだまだ未熟な私共ではございますが、病気と闘っている方々、その御家族のために、できる限りの努力を尽したいという心は初回から変わることはございません。

今年を土台にして、次回はさらに充実した催物となるよう頑張りますので、来年もどうぞよろしくお願いいたします。

骨髄バンクを支援する会
代表　齋藤　京子

参加者の声

骨髄バンクのバザーをお手伝いして

「溶連南なの？」と言われる位、目まぐ赤にしました。

大石邦子さんは、すべて御自分の手作られだけなのですが、心洗われる貴重な時間でした。

会計とうお手伝いの途中、快く講演を聞かせていただいてありがとうございました。バザーの商品も充実していたと思います。お客様が満足した様子で帰られるのがわかりました。手作りチョコレートケーキも美味でした。

初めて参加させていただいたのですが、皆さんあたたかく心もお腹も豊かな一日でした。

（高橋）

・　・　・

初めての参加でしたので始まる前は少し不安でしたが、いろいろな面でとても良い経験になりました。

ケーキがとてもおいしかったです。

（永山）

・　・　・

今年のバザーは、しゃくなげ会館の大変広いところで行うことができました。

忙しい中、二時間、三時間とひまをおしんでお手伝いする方々、手作りの品物・お菓子を持参する方々etc。一人一人の小さな力がたくさん集まって盛大な「骨髄バンク支援バザー」となりました。楽しく、おいしく、忙しく、胸の中が暖かい思い出でいっぱいです。まだおいでになったことのない方、来たはずは御参加御来場下さいませんか？

（鈴木）

・　・　・

初めてお手伝いさせて頂きました。何もお役に立てないうちに終わったような気がしますが、「ケーキ」おいしかったです。

（牧野）

・　・　・

昨年、白血病で御主人を亡くされた友人の紹介で、前回よりお手伝いさせて戴いております。

毎回いろんな方々とお会いできるのがとても楽しみです。

この活動に触れて、白血病に苦しむ方々が、私の身近にも大勢いる事に、改めて気づかされました。

（平井）

中には『あやちゃんと、その家族の人へ』というメッセージを書き残していった人もいました。

本来、こういったものは子供向け、大人向け等と分けられるものではなく、本当にすばらしいものは、年代を超えて感動を与えられるものなのだと、改めて実感しました。

岸川悦子さんの講演は、子供にわかりや易い話をお願いします」とだけ注文しておいて内容はお任せということでしたので、主催者の私達も、どんな話をしてくれるのか興味があったのですが、講演を聞いてみて、そのすばらしさ、内容の豊かさに感動しました。

満州で迎えた終戦、そして引き揚げ船による帰国の体験談を軸に、障害を持つ子供のこと、いじめのこと、生命はかけがえのないものであるという二三等。難しくなりがちな問題を、小さなちえっちゃんが、見て、感じて考えたことをして、淡々と語ってくれました。

岸川さんの著書「五等になれない」は、教育関係者を中心に注目されているようですが、教育問題も、障害者の問題も、「骨髄バンク運動とは根っこでつながっているのだなあと実感した岸川さんの講演でした。

今回の企画は、骨髄バンクネスコ協会との共催でやれたことで入場者が増え、大成功だったと思います。

会津支部には、今後もこのような形の企画を、とにかく継続してやっていくつもりでいます。

▶講演を終えて食事のひとときを岸川悦子さん（右）と大石邦子さん（左）

『あやちゃんの贈り物』展

会津ユネスコ協会幼児画展と共催

アニメ『金色のクジラ』上映、岸川悦子氏講演会も同時開催

12月6日～10日　会津若松市文化福祉センターにて

『あやちゃんの贈り物展』の会場は、幼児画展であるとの事もあり、チラシや広報を見て下さった人も結構いらっしゃいました。

子供の絵を見に来たついでに何となく足をふみ入れ、「おーこれはうまいなぁー」と感じながら見ていくお父さんも、黙ってひと巡りし、目を真っ赤にして帰っていくお母さん、子供たちは自由帳に向かい、色々のペンを使って楽しそうに絵を描いていましたが、後で見ると、彩ちゃんへのメッセージもちゃんと書いてありました。

チラシを配ったのは主に市内の保育園、幼稚園園、小・中学校でしたが、たまたま別の用事で文化センターに来ていた高校生も何人か立ち寄り、お父さんの三瓶和義さんにも出席してもらい、テープカットをしていただきました。あいにくと天気は下り坂で、六日～八日は平日でありましたこともあり出足が悪く、日六十～八十人位でしたが、十日には雪も上がり穏やかな日曜日となり、一時はカウントしきれないほどの入場があり、最終的には五日間で約千二百名となりました。

内訳をみると大部分は、幼児画展に出品した児童とその家族であったようです。